

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

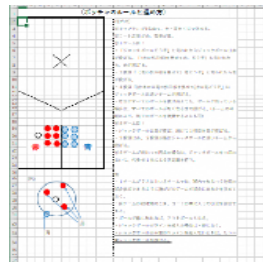
道府県・政令市名【 福島県 】

学校名【 福島県立会津支援学校 】

1 実践テーマ	①・②・③・④・⑤
2 実施対象者 (学年・人数)	高等部生徒（通常クラス65人） アンケート実施 中学部生徒（全生徒60名） アンケート実施 33名 中学部教員対象 ボッチャ競技講習会 32名 会津学鳳中学校生徒 88名 アンケート実施 88名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間) ② 行事名 (会津学鳳中学校との交流会) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年オリンピック・パラリンピック競技の開催地として多様な文化を受け入れて、人々が互いに人権を尊重し合い、共生社会の実現を目指すため、障がい者スポーツの体験学習及び実技講習会を実施し、理念を具現化する。 ・パラリンピックで実施種目であるボッチャ競技について理解を深め、パラリンピックについての興味・関心を高める。 ・共生社会実現のため、ボッチャ競技を通して交流を図り、相互理解を深める。「障がい者スポーツの体験と理解 ～共生社会をめざして～」
5 取組内容	<p>・昨年度オリパラ推進委員会では、本校の生徒と教員を対象に障がい者スポーツであるボッチャ競技について競技の実践をとおして理解を深めてきた。そのことを受けて、2年目はボッチャ競技を校内だけでなく外部に向けて発信し、障がい者スポーツの理解と共生社会の実現に向けた取り組みを考えた。</p> <p>本校中学部では、会津学鳳中学校との交流活動を毎年行っている。今年は障がい者スポーツについて学習したいとの希望があり良い機会ととらえ実施するに至った。</p> <p>会津学鳳中学校との交流会に向けて係で検討した結果、以下の活動を進めることになった。</p> <p>1) ボッチャ競技のゲームの仕方とルールについて(本校の教員が運営をするため、ルールについて共通理解を図る機会を作った。)</p> <p><教員対象>夏休みにボッチャ競技の行い方やルールについて中学部教員間で講習会を行い共通理解を図った。</p>

【令和元年7月31日（水）】

- ① ボッチャ競技を知ってもらうためにゲームを行った。
- ② ルールを理解してもらうために簡易ルールで共通理解を図った。



2) 交流会の事前学習として、会津学鳳中学校へ出向いて、「障がいのある友達との接し方について」パワーポイントや疑似体験、演習等の内容で開催し理解を深めることができた。

【令和元年8月28日（水） 13:00～14:40(100分)】

① 学習内容

- 会津支援学校について
- 障がいについて知る 演習Ⅰ：疑似体験
演習Ⅱ：リフレーミング
- グループワークをする
- 学習のまとめ



3) 交流学习でボッチャ競技のゲームを通して相互理解を図った。

① 令和元年9月4日（水）
(9:00～11:45)

② 場所 会津支援学校



③ 活動内容

- 障がい者スポーツについて
(パワーポイントで説明を行った。)

- 始まりの会
- 各グループで集まる
- 自己紹介
- 準備運動



- (会津支援学校独自のパワー体操)
- 各コートに分かれてボッチャ競技のゲームスタート
- 全体集合写真撮影
- おわりの会

4) 事後学習

- 令和元年9月4日（水）5校時
- 交流学习を振り返る。(写真等を見る。)
- 礼状の作成(グループごとに作成した。)

5) 会津支援学校(中学部通常のクラス) アンケート

- 交流会事前のアンケート実施(33名)【令和元年8月下旬】
- アンケート用紙 別紙参照①

	<p>6) 会津学鳳中学校 生徒 (88名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流会事前アンケート【令和元年8月下旬】 ・アンケート用紙 別紙参照② <p>7) 会津支援学校 (中学部通常クラス) アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流会事後のアンケート実施 (33名)【令和元年9月上旬】 ・アンケート用紙 別紙参照③ <p>8) 会津支援学校 (高等部通常クラス) アンケート実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常学級の生徒 (全学年) を対象に実施 (65名) ・アンケート用紙 別紙参照④【令和元年9月中旬】 <p>9) 会津学鳳中学校 生徒 (88名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流会事後アンケート【令和元年9月中旬】 ・アンケート用紙 別紙参照⑤ <p>10) 会津支援学校 高等部・中学部アンケート分析 【令和元年10月上旬】</p> <p>11) 会津学鳳中学校事前・事後アンケート分析 【令和元年11月中旬】</p>
<p>6 主な成果</p>	<p>○会津支援学校 (高等部アンケート結果：考察)</p> <p>1) 障がい者スポーツの体験状況や、そこから見えてくるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校高等部には、部活動 (陸上、ボッチャ、フライングディスク、バスケットボール、サッカー) があり、週2日活動しており、学部行事のスポーツフェスティバルでもボッチャ競技とディスクゲッターを行っている。そのため、多くの生徒がボッチャ競技とフライングディスクを経験している。さらにその他の競技においても、体育の授業などで体験する機会を増やし、障がい者スポーツを広めていきたい。 <p>2) 障がい者スポーツを行うにあたって、どのような意識で取り組んでいるか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの結果から、障がい者スポーツに限らずスポーツを行うにあたり、意識していることについては、①「ルールを守ること」、②「友達と協力すること」、③「順番を守ること」が圧倒的に多く、普段の体育の授業や部活動においても、それぞれ、それらを意識した行動が多くみられる。 <p>また、技術の習得や記録の向上に向けては、部活動で頑張っている練習をするという生徒が半数以上おり、さらには、自主トレーニングでランニングや筋力トレーニングを行い、体力をつけるために努力している生徒も若干いる。</p> <p>技能の習得においては、上手な人 (プロの試合等) のプレーを観るということも1つと考えられるが、一部の生徒を除いては、興味関心が低く、そのような機会も少ないのが現状である。</p> <p>3) オリパラに関する注目度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年の東京オリパラ開催については、約73%の生徒が知っていた。「見に行きたい」、「テレビで応援したい」と思っている生徒は約90%おり、興味関心は非常に高いことがうか

がえる。競技別にみると、特に、陸上、水泳、バスケットボール、サッカー、が多く、少数意見としては、ボッチャ、バドミントン、バレーボール、野球などが挙げられたが、パラリンピックというよりはオリンピックに対する興味が高いように感じた。

○会津支援学校（中学部アンケート結果：考察）

1) 会津学鳳中学校との交流会を通して事前と事後にアンケート調査を行った。（事前と事後は、ほぼ同じ内容のアンケートを実施した。）その結果について考察した。

①事前と事後のアンケートで変化の大きかった項目について

・質問1について、『友達と協力する』、『応援する』の項目については、いずれも意識が高まり、事前のアンケート結果の倍近くの結果がみられ、お互いに教えあったり、声掛けあったりするなどボッチャ競技を通して友達と協力しながらゲームを行ったと考えられる。また、『1人で行う』ことについては、事前のアンケートでは7人がその通りであるに対して、事後のアンケートでは、1人になっており、このことから友達を意識してボッチャ競技を行うことができたと考える。

②2の質問では、上手にボッチャを行うためにはどんなことが必要ですか？

・事前のアンケート結果では、『まっすぐに投げる』と『力加減に気を付ける』と『その他』の欄を設けた。『その他』の欄には誰1人記入していなかったが、事後のアンケートで自由に記述してもらった結果、生徒1人1人が自分の考えをもってボッチャ競技に取り組んでいたことが分かった。

③3の質問では、会津学鳳中学校との交流会についてどのように思っているかについては、事前・事後のアンケートでは、全員が『楽しみにしている』、『楽しかった』と答えている。

④事後アンケートの4の質問では、会津学鳳中学校の友達と一緒に、またスポーツをしたいと全員が答えている。

⑤東京オリンピック・パラリンピックについては、事前・事後のアンケート結果を見ると大きな差、変化はなかったが、テレビ参戦や実際に見たいと興味をもっている生徒は64%であった。

2) 総括

・今回の会津学鳳中学校との交流会では、生徒が楽しみにしている活動で『またやりたい』との声がとても多かった。

このことから外部とのかかわりを楽しみにしている生徒が多いことと、障がい者スポーツの経験を豊かにすることで生徒1人1人の障がい者スポーツに対する意識や認知度を高めることができると感じた。

○会津学鳳中学校の生徒にボッチャを通じての交流活動前後にアンケートを実施した。

第1回 実施時期：8月下旬 回答数84名

第2回 実施時期：9月上旬 回答数88名

第1回(以後、事前)の実施では、本校との交流学習前に行った。73名が障がい者スポーツを経験したことがなく、そのうち69名は、興味があったものの、やる機会がなかったとのことであった。また、障がい者とのスポーツ経験者(障がい者スポーツのみならず、すべてのスポーツ)は20名であった。スポーツを通じた交流への感じ方は、61名が「楽しみ」とのことであった。

第2回(以後、事後)のアンケート実施は、本校との交流後に行った。ボッチャ競技を通じた交流を行い、「障がい者スポーツをまたやってみたいか」という問いに対して、なんと88名全員が「そう思う」との回答があった。その理由としては以下のとおりである。

- ・「楽しかったから」という回答が最多の66名
- ・楽しかった理由を細かく見ていくと、「障がいがあってもなくても一体となって、誰もができるスポーツ」
- ・「全員が楽しめ、盛り上がるから」
- ・「みんなが楽しめるスポーツ」
- ・「面白いルール」
- ・「難しく奥深いスポーツ」
- ・「障がい者と楽しく交流できた」
- ・「みんなが協力・団結できる」
- ・「チームのみんなと喜びあえる」

といった回答があった。スポーツの団体性という側面から楽しめたという意見もあった。

楽しかったという理由以外の回答でも、またボッチャをやってみたいという理由が、競技の特性と団体性の良さをどちらか感じ取れたということに含めることができた。

次に、生徒の東京オリンピック・パラリンピックに関する興味・関心に関して、事前のアンケートでは、「興味がある」と答えたのは54名であったが、事後のアンケートでは、「ボッチャ競技を通じてオリンピックやパラリンピックへの興味・関心が高まった」と答えた生徒が85名と、ほとんどの生徒が高まったと回答した。

さらに、障がい者との交流についてどう感じたり考えたりしたかについてのアンケート結果である。事前では、「障がい者スポーツを通しての交流をどう感じているかについて、「楽しみ」が一番多く58名、「不安」に感じている生徒が20名であった。事後のアンケートでは、スポーツを通しての交流をどう感じたかについて自由記述してもらった。その結果、10名以上あったものでは、以下のとおりである。

- ・「楽しかった」41名。

	<ul style="list-style-type: none"> ・「ボッチャは障がい者も健常者も同じように皆ができるスポーツだと感じた」20名。 ・スポーツを通して、よいコミュニケーションが取れた(または深まった)19名。 ・「お互いのことをよく知らない状態で意思疎通をしながらスポーツができるのか不安だったが、一緒に喜んだり、拍手したりとスポーツをやることで心の壁が少し取り除かれたと感じた」13名。 ・「機会があればまたボッチャをやりたい」12名。 ・「ボッチャを通じてみんなの団結力を感じられた」10名。 <p>少数意見では、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「障がい者に対するの対応や配慮が知れた」 ・「どんな人でも、同じものを通して楽しめることが大切だと改めて感じた」 ・「今回の経験で障がい者というイメージ自体ががらりと変わった」 ・「人と少し違うところがあっても、良いところは誰でも持っているということを改めて感じた」 ・「障がいを持っているだいたいの生徒は自分から積極的に応えてくれ楽しめたが、体の不自由な生徒も周りのサポートがあれば十分に楽しめたようだった。サポートは大切だと感じた」などの記述があった。 <p>3) 総括</p> <p>アンケートの結果から、ボッチャという競技は、スポーツが苦手な人でも楽しむことができる競技であることや、それだけではなく、的である玉にいかにか近づけて競いあうかという奥深さもある競技であり、生徒たちが競技の特性を感じ取って楽しむことができたと考えられる。また、ボッチャという競技は団体競技であることから、交流学习を通して、ボッチャ競技を行い、皆で盛り上がり、喜んだりすることで一体感を生み、円滑な交流も図ることができた。さらに生徒たちは、ボッチャを通じた交流学习を通じて、オリンピック・パラリンピックに対する興味・関心が高まったと考えられる。</p> <p>ボッチャ競技を通じて、生徒たちは障がいのある・なしにかかわらず、場を共有し互いに楽しみながら相手を思いやる気持ちを育てることができた。生徒たちは素晴らしい交流を行うことができ、まさしく共生社会を具現化することにつながったと言える。</p>
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会津学鳳中学校との交流を図るうえで、障がいのある生徒に関わることに不安があるということで、出前授業を行ったりお互いの担当の教員で打合せを何度か行ったりした。 ・お互いが分かりやすいようにボッチャ競技のルールを簡易に設定して行った。 ・お互いの交流会の担当者がボッチャのゲームを行って実際に体験した。 ・交流会を始める前に「障がい者スポーツについて」紹介をした。

	<p>そのなかで実際にボッチャのゲームを会津学鳳中の生徒に体験してもらいながら、簡易のルールや行い方について共通理解を図った。</p>
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> 活動場所に限界があり、今回の交流会では体育館だけでは実施することが困難だった。5 教室とある程度のスペースが確保できる廊下を使用した。そのため実際のボッチャのコートの広さを確保できずにプレーした。その点については課題である。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> このような機会を生かして、来年度はボッチャ競技のみならず障がい者スポーツ（フライングディスク、ジャベリックスローなど）を体験する予定である。（両校の担当で方向性を確認した。）